

声なき声で語る

ボクが過ごした日々、
その世界と自閉症

著：ティト・ラジャルシ・ムコパディアイ 訳：石田遊子 ISBN：978-4-909375-14-8 A5判 182頁 2,200円(10%税込)

9月末
発行予定



本書『ティトの物語』より

詩2

一瞬の間にいろいろなことが起こる
あれやこれや
あれとこれの一部だったり
これの全部だったり
あれは一切起こらなかったり
あれの全部が起きたり
これはまったく起きなかったり
重要だと思うかどうかによりけり
あれやこれや

「話したいのに、話せない」「遊びたいのに、遊べない」「どうやれば良いですか？ と聞くことも出来ない」

言葉を持たない重度自閉症の著者が語る、自閉症とともに生きる世界とは

著者ティト・ラジャルシ・ムコパディアイ（以下ティト）は言葉を持たない重度自閉症だが、母の熱心な教育によって、内面を表現する手段としての「文字」を得て文を書き始める。

本書ではティトのこれまでの人生を哲学的思考をもとに正確な文章で表現をしている。

自分自身の持つ感覚や混乱、環境との関わり、両親の前向きな教育姿勢と努力、自分自身が何者なのかを理解するのに悪戦苦闘する姿を、丁寧に書き下ろし、詩も掲載している。

母のソマは「ティトを育てる私の旅は、まるで冒険物語のようでした。それは、ある時は険しい道を進み、またある時は坂道を滑り降り、そして『私はちゃんと“母親”をやれているだろうか？』という厳しい問いと向き合い、決断をしていかなければならない孤独な旅です」と語る。（序文から）

本書は、重度自閉症の子を持つ親や本人への応援歌である。



株式会社 エスコアール

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢 2-36-3

ご注文
お問合せ



<https://escor.co.jp>



0438-30-3090（受付時間：平日9:00～17:30）



0438-30-3091

※掲載内容は予告なく変更になることがありますので、ご了承ください。

